

令和8年度 瑞浪市総合計画推進委員会 事業評価シート

担当課	商工観光課	担当課長名	足立 寛聡
-----	-------	-------	-------

1. 事業概要				部・局名	経済部	課・所属名	商工観光課
施策体系	大 区 分	活気みなぎるまちづくり			事業概要	※令和2年度より「みずなみ焼等販路開拓支援事業」から当該事業へ名称を変更しました。 産業のさらなる活性化・発展のために、展示会・見本市開催事業に要する経費の補助と、新商品開発に要する経費の補助により、市内事業者の販売力強化、販路の開拓・拡大を支援します。	
	中 区 分	工業					
	小 区 分	地場産業の活性化					
実施事業	事 業 名	中小企業販路開拓支援事業			翌年度以降3年間の内容		
	事業目的	市内事業者の販路開拓支援					
	目標指標	参加企業					
	事業期間	R2～					
	総括表掲載	掲載あり					
	二次評価対象	○					
予算科目	会 計	款	項	目	事業名		
	001 一般会計	007 商工費	001 商工費	002 商工振興費	07010238	中小企業販路開拓支援事業	

2. 事業評価													
投入コスト（単位：千円）													
年度区分等	決算事業費（単位：千円）							目標値実績（単位：社）					
	国庫支出金	県支出金	起 債	基 金	その他	一般財源	計	年度	実績	目標			
6						6,333	6,333	5	43.0	70.0			
7						4,801	4,801	6	38.0	70.0			
8								7	39.0	70.0			
9								8	0.0	70.0			
10								9	0.0	70.0			
11								10	0.0	70.0			
12								11	0.0	70.0			
13								12	0.0	70.0			
14								13	0.0	70.0			
15								14	0.0	70.0			
計						11,134	11,134	15	0.0	70.0			
担当課評価	実施状況	展示会・見本市への出展、美濃焼新作展示会・美濃焼新春見本市の開催に対して補助金を交付し、延べ39社が14の展示会・見本市に参加しました。											
	問題課題	例年、展示会・見本市への出展事業のみが行われており、事業内容が形骸化しているため、出展事業以外の新たな販路開拓の切り口が必要です。											
	具体的改善内容	既存製品の売り上げ低迷や新規顧客層へのアプローチ不足等を解決するため、新たに市場ニーズに即した新商品開発及びパッケージ刷新等も支援します。											
査定							次年度方向性	現状で継続					

3. 達成度評価

達成度	C	【達成度凡例】 A…目標値を達成 B…目標値の7割以上達成 C…目標値の5割以上達成 D…目標値の3割以上達成 E…目標値の3割未満の達成
-----	---	--

4. 二次評価

(1) 項目別評価

達成度	事業の成果や実施の目標に対する達成状況。	評価	
効率性	実施体制、実施主体を含め、事業の進め方が明確でスムーズか。	評価	
必要性	市民ニーズや社会情勢等を踏まえた事業を実施する必要はあるか。事務事業の現状や成果から考えて、廃止・休止の可能性はあるか。 ※完了した事業については、効果の観点で必要であったか評価する。	評価	
明瞭性	事業の内容やその評価が、市民に分かりやすいか。	評価	

【二次評価基準凡例表】

(1) 項目別評価

評価項目	A(25点)	B(20点)	C(15点)	D(10点)	E(5点)
達成度	目標を大きく上回る成果があり、高く評価できる。	おおむね目標を達成し、一定の成果が確認できる。	一部の目標は達成したが、成果にはバラつきがある。	成果が乏しく、目標が達成できていない。	成果が見られず、事業の目的が果たされていない。
効率性	実施方法に無駄がなく、段取りや手順が非常に工夫されている。	全体としてよく考えられており、概ね効率的に実施されている。	一定の工夫は見られるが、非効率な部分も一部残っている。	実施の段取りや手法に無理・無駄があり、再検討の余地がある。	非効率で場当たりのな実施に見える。方法の見直しが強求められる。
必要性	高い市民ニーズがあり、今後も不可欠な事業。	一定のニーズがあり、当面は継続の必要性がある。	限定的なニーズだが、部分的に必要性が認められる。	必要性が薄れており、見直し・休止の検討が必要。	必要性が見られず、廃止が妥当と考えられる。
明瞭性	誰にでも分かりやすく、説明も優れている。	説明内容は概ね明瞭で、市民の理解が得やすい。	一部分かりにくい点があるが、理解可能な範囲。	内容や目的が不明瞭で、市民に伝わりにくい。	非常に分かりにくく、市民への説明責任を果たせていない。

(2) 個人総合評価

総合得点	評価	評価内容
100～90点	A	非常に優れており、他事業の模範となる水準
89～75点	B	十分な成果と必要性があり、継続が妥当
74～60点	C	概ね良好だが、部分的に改善の余地あり
59～40点	D	成果・必要性に課題があり、改善が必要
39点～	E	効果・必要性が乏しく、廃止・統合も検討対象

(2) 個人総合評価

評価	
意見・コメント	

(3) 委員会総合評価

総合得点	評価	評価内容
900～810点	A	個人総合評価と同様
809～675点	B	
674～540点	C	
539～360点	D	
359点～	E	

令和8年度 瑞浪市総合計画推進委員会 事業評価シート

担当課	商工観光課	担当課長名	足立 寛聡
-----	-------	-------	-------

1. 事業概要

1. 事業概要			部・局名	経済部	課・所属名	商工観光課
施策体系	大区分	持続可能なまちづくり		事業概要	日吉町、大湫町、明世町、釜戸町にて北部デマンド交通、陶町にて陶デマンド交通を運行します。 ＜令和9年度積算＞北部デマンド交通（※稼働率40％）、陶デマンド交通（※稼働率30％） ・回数 北部:244日/年*6回/日*3ルート*40％≒1,760回、陶:244日/年*3便*30％≒220回 ・経費 北部:4,800円*1,760回*1.1≒9,293千円、陶:6,900円*220回*1.1≒1,670千円 ・収入 北部:753千円（R5～R7の平均）、陶:68千円（見込額） ・経費-収入 北部:9,293千円-753千円＝8,540千円、陶:1,670千円-68千円＝1,602千円 ・システム運用業務委託：1,222千円*1.1＝1,345千円 ・アンケート郵送料125千円 ・国庫補助金：約1,900千円（清算金収入）※稼働率30％に満たない系統は補助対象外	
	中区分	公共交通				
	小区分	利便性の高いコミュニティバス・デマンド交通の運行				
実施事業	事業名	デマンド型交通運行事業		翌年度以降3年間の内容		
	事業目的	交通不便地域の交通手段の確保				
	目標指標	デマンド交通の人口千人あたりの年間利用回数				
	事業期間	H28～				
	総括表掲載	掲載あり				
	二次評価対象	○				
予算科目	会計	款	項	目	事業名	
	001 一般会計	007 商工費	001 商工費	001 商工総務費	07010105	デマンド型交通運行事業

2. 事業評価

投入コスト（単位：千円）							目標値実績（単位：回/千人・年）		
年度区分等	決算事業費（単位：千円）						年度	実績	目標
	国庫支出金	県支出金	起債	基金	その他	一般財源			
6		569				5,329	5	1,901.0	4,500.0
7		276				6,817	6	45.0	53.0
8							7	53.0	57.0
9							8	0.0	60.0
10							9	0.0	60.0
11							10	0.0	60.0
12							11	0.0	60.0
13							12	0.0	60.0
14							13	0.0	60.0
15							14	0.0	60.0
計		845				12,146	15	0.0	60.0
担当課評価	実施状況	令和7年10月から、コミュニティバス陶線を陶デマンドに転換しました。令和7年度の北部デマンド交通年間利用者数は、53回/千人・年であり、令和6年度の45回/千人・年を上回りました。							
	問題課題	大湫・日吉東部ルートは、稼働率30％を下回り、補助金の要件を満たしていない上、補助金の対象となった日吉・明世ルートと釜戸ルートについても、30％を下回る月があります。また、10月から運行を開始した陶デマンド交通についても、稼働率が低く補助対象とならない状況であるため、利用促進を図る必要があります。							
	具体的改善内容	登録者アンケート及び地元要望等によりニーズを把握し、運行事業者との情報共有により、デマンド交通の利便性向上を図ります。また、新規利用者の開拓及び利用促進のため、出張乗り方教室の開催について周知します。							
査定						次年度方向性	現状で継続		

3. 達成度評価

達成度	B	【達成度凡例】 A…目標値を達成 B…目標値の7割以上達成 C…目標値の5割以上達成 D…目標値の3割以上達成 E…目標値の3割未満の達成
-----	---	--

4. 二次評価

(1) 項目別評価

達成度	事業の成果や実施の目標に対する達成状況。	評価	
効率性	実施体制、実施主体を含め、事業の進め方が明確でスムーズか。	評価	
必要性	市民ニーズや社会情勢等を踏まえた事業を実施する必要があるか。事務事業の現状や成果から考えて、廃止・休止の可能性はあるか。 ※完了した事業については、効果の観点で必要であったか評価する。	評価	
明瞭性	事業の内容やその評価が、市民に分かりやすいか。	評価	

【二次評価基準凡列表】

(1) 項目別評価

評価項目	A(25点)	B(20点)	C(15点)	D(10点)	E(5点)
達成度	目標を大きく上回る成果があり、高く評価できる。	おおむね目標を達成し、一定の成果が確認できる。	一部の目標は達成したが、成果にはバラつきがある。	成果が乏しく、目標が達成できていない。	成果が見られず、事業の目的が果たされていない。
効率性	実施方法に無駄がなく、段取りや手順が非常に工夫されている。	全体としてよく考えられており、概ね効率的に実施されている。	一定の工夫は見られるが、非効率な部分も一部残っている。	実施の段取りや手法に無理・無駄があり、再検討の余地がある。	非効率で場当たりのな実施に見える。方法の見直しが強求められる。
必要性	高い市民ニーズがあり、今後も不可欠な事業。	一定のニーズがあり、当面は継続の必要性がある。	限定的なニーズだが、部分的に必要性が認められる。	必要性が薄れており、見直し・休止の検討が必要。	必要性が見られず、廃止が妥当と考えられる。
明瞭性	誰にでも分かりやすく、説明も優れている。	説明内容は概ね明瞭で、市民の理解が得やすい。	一部分かりにくい点があるが、理解可能な範囲。	内容や目的が不明瞭で、市民に伝わりにくい。	非常に分かりにくく、市民への説明責任を果たせていない。

(2) 個人総合評価

総合得点	評価	評価内容
100～90点	A	非常に優れており、他事業の模範となる水準
89～75点	B	十分な成果と必要性があり、継続が妥当
74～60点	C	概ね良好だが、部分的に改善の余地あり
59～40点	D	成果・必要性に課題があり、改善が必要
39点～	E	効果・必要性が乏しく、廃止・統合も検討対象

(2) 個人総合評価

評価	
意見・コメント	

(3) 委員会総合評価

総合得点	評価	評価内容
900～810点	A	個人総合評価と同様
809～675点	B	
674～540点	C	
539～360点	D	
359点～	E	

令和8年度 瑞浪市総合計画推進委員会 事業評価シート

担当課	学校教育課	担当課長名	廣瀬 浩一郎
-----	-------	-------	--------

1. 事業概要			部・局名	教育委員会	課・所属名	学校教育課
施策体系	大 区 分	人・未来を育むまちづくり		事業概要 翌年度以降3年間の内容	教職員のサポートをするスクールサポートスタッフを配置しています。	
	中 区 分	就学前教育・学校教育			給料 10人（10校） ＊3時間＊190日＊1,016円＝5,791,200円 通勤費 10人＊190日＊200円＝380,000円	
	小 区 分	確かな学力と健やかな体の育成			R 2～R 5 県の補助2/3 但し35週分（教育支援体制整備補助金） R 6 県の補助10人（10校） ＊3時間＊35週＊1,000円＝5,250,000円（教員業務支援配置事業） R 7 県の補助10人（10校） ＊3時間＊38週＊1,055円＝6,013,500円（教員業務支援配置事業） R 8 県の補助10人（10校） ＊2.5時間＊38週＊1,228円＝5,526,000円（教員業務支援配置事業）	
実施事業	事 業 名	スクールサポートスタッフ配置事業				
	事業目的	教員の事務仕事をサポートすることにより、教員が学習指導に専念できるため、子どもたちの学びの保証につながります。				
	目標指標	1ヶ月の時間外勤務時間が45時間以下の教員の割合				
	事業期間	R2～				
	総括表掲載	掲載あり				
	二次評価対象	○				
予算科目	会 計	款	項	目	事業名	
	001 一般会計	010 教育費	001 教育総務費	003 教育振興費	10010339	スクールサポートスタッフ配置事業

2. 事業評価

投入コスト（単位：千円）								目標値実績（単位：75％）		
年度区分等	決算事業費（単位：千円）							年度	実績	目標
	国庫支出金	県支出金	起 債	基 金	その他	一般財源	計			
6		4,845				487	5,332	5	0.5	0.5
7		5,411				1,107	6,518	6	70.9	75.0
8								7	71.6	76.0
9								8	0.0	76.0
10								9	0.0	76.0
11								10	0.0	76.0
12								11	0.0	77.0
13								12	0.0	77.0
14								13	0.0	77.0
15								14	0.0	77.0
計		10,256				1,594	11,850	15	0.0	77.0
担当課評価	実施状況	多様化する業務改善を踏まえ、教員の事務作業に対するサポートをすることで働き方改革を推進していきます。								
	問題課題	学校によっては、大規模と小規模で働き方が異なる。仕分けするにも人数分の業務量となるため、短時間勤務では難しい現状があります。（瑞浪小、土岐小、瑞浪中、瑞浪南中、瑞浪北中）								
	具体的改善内容	人材バンクに努めて、必要数を確保していきます。								
査定							次年度方向性	拡大して実施		

3. 達成度評価

達成度	B	【達成度凡例】 A…目標値を達成 B…目標値の7割以上達成 C…目標値の5割以上達成 D…目標値の3割以上達成 E…目標値の3割未満の達成
-----	---	--

4. 二次評価

（1）項目別評価

達成度	事業の成果や実施の目標に対する達成状況。	評価	
効率性	実施体制、実施主体を含め、事業の進め方が明確でスムーズか。	評価	
必要性	市民ニーズや社会情勢等を踏まえた事業を実施する必要はあるか。事務事業の現状や成果から考えて、廃止・休止の可能性はあるか。 ※完了した事業については、効果の観点で必要であったか評価する。	評価	
明瞭性	事業の内容やその評価が、市民に分かりやすいか。	評価	

（2）個人総合評価

評価		
意見・コメント		

【二次評価基準凡例表】

(1)項目別評価

評価項目	A(25点)	B(20点)	C(15点)	D(10点)	E(5点)
達成度	目標を大きく上回る成果があり、高く評価できる。	おおむね目標を達成し、一定の成果が確認できる。	一部の目標は達成したが、成果にはバラつきがある。	成果が乏しく、目標が達成できていない。	成果が見られず、事業の目的が果たされていない。
効率性	実施方法に無駄がなく、段取りや手順が非常に工夫されている。	全体としてよく考えられており、概ね効率的に実施されている。	一定の工夫は見られるが、非効率な部分も一部残っている。	実施の段取りや手法に無理・無駄があり、再検討の余地がある。	非効率で場当たりのな実施に見える。方法の見直しが強く求められる。
必要性	高い市民ニーズがあり、今後も不可欠な事業。	一定のニーズがあり、当面は継続の必要性がある。	限定的なニーズだが、部分的に必要性が認められる。	必要性が薄れており、見直し・休止の検討が必要。	必要性が見られず、廃止が妥当と考えられる。
明瞭性	誰にでも分かりやすく、説明も優れている。	説明内容は概ね明瞭で、市民の理解が得やすい。	一部分かりにくい点があるが、理解可能な範囲。	内容や目的が不明瞭で、市民に伝わりにくい。	非常に分かりにくく、市民への説明責任を果たせていない。

(2)個人総合評価

総合得点	評価	評価内容
100～90点	A	非常に優れており、他事業の模範となる水準
89～75点	B	十分な成果と必要性があり、継続が妥当
74～60点	C	概ね良好だが、部分的に改善の余地あり
59～40点	D	成果・必要性に課題があり、改善が必要
39点～	E	効果・必要性が乏しく、廃止・統合も検討対象

(3)委員会総合評価

総合得点	評価	評価内容
900～810点	A	個人総合評価と同様
809～675点	B	
674～540点	C	
539～360点	D	
359点～	E	

令和8年度 瑞浪市総合計画推進委員会 事業評価シート

担当課	こども家庭課	担当課長名	赤岩 晋
-----	--------	-------	------

1. 事業概要				部・局名	健康福祉部	課・所属名	こども家庭課
施策体系	大 区 分	人・未来を育むまちづくり			事業概要	出生後1年以内の母子に対して心身のケアや育児のサポート等を行い、産後も安心して子育てができる支援体制の確保を行う事業。少子化の状況を踏まえ、誰もがより安心、安全な子育て環境を整えるため、R3年度から市町村の努力義務として規定された。R7年度より子ども・子育て交付金の対象となった。（国1/2 県1/4 市1/4） 事業費の積算 ①宿泊型 1日あたり30,000円 生後4か月まで 50日（見込） ②訪問型 1日あたり10,000円 1歳まで 50日（見込） ③通所型 1日あたり15,000円 生後4か月まで 100日（見込） 多胎児：1日あたり23,000円 ④予約システム利用料 2機関 400,000円	
	中 区 分	子育て支援					
	小 区 分	子ども子育て支援の充実					
実施事業	事 業 名	産後ケア事業			翌年度以降3年間の内容		
	事業目的	産後の子育て支援					
	目標指標	利用希望者の利用率					
	事業期間	R3～					
	総括表掲載	掲載あり					
	二次評価対象	○					
予算科目	会 計	款	項	目	事業名		
	001 一般会計	004 衛生費	001 保健衛生費	003 母子保健費	04010314	産後ケア事業	

2. 事業評価

投入コスト（単位：千円）								目標値実績（単位： % ）		
年度区分等	決算事業費（単位：千円）							年度	実績	目標
	国庫支出金	県支出金	起 債	基 金	その他	一般財源	計			
6	539					540	1,079	5	100.0	100.0
7	803	401				402	1,606	6	100.0	100.0
8								7	100.0	100.0
9								8	0.0	100.0
10								9	0.0	100.0
11								10	0.0	100.0
12								11	0.0	100.0
13								12	0.0	100.0
14								13	0.0	100.0
15								14	0.0	100.0
計	1,342	401				942	2,685	15	0.0	100.0
担当課評価	実施状況	産後1年未満の母子を対象に宿泊型・通所型・訪問型の産後ケア事業を実施しました。								
	問題課題	利用者の増加に伴い、医療機関との連絡調整や、空き状況の確認に時間を要するようになりました。								
	具体的改善内容	利用者の利便性の向上、行政や医療機関の事務効率化（D X化）のため予約システムの導入を検討します。								
査定							次年度方向性	現状で継続		

3. 達成度評価

達成度	A	【達成度凡例】 A…目標値を達成 B…目標値の7割以上達成 C…目標値の5割以上達成 D…目標値の3割以上達成 E…目標値の3割未満の達成
-----	---	--

4. 二次評価

(1) 項目別評価

達成度	事業の成果や実施の目標に対する達成状況。	評価	
効率性	実施体制、実施主体を含め、事業の進め方が明確でスムーズか。	評価	
必要性	市民ニーズや社会情勢等を踏まえた事業を実施する必要はあるか。事務事業の現状や成果から考えて、廃止・休止の可能性はあるか。 ※完了した事業については、効果の観点が必要であったか評価する。	評価	
明瞭性	事業の内容やその評価が、市民に分かりやすいか。	評価	

【二次評価基準凡例表】

(1) 項目別評価

評価項目	A(25点)	B(20点)	C(15点)	D(10点)	E(5点)
達成度	目標を大きく上回る成果があり、高く評価できる。	おおむね目標を達成し、一定の成果が確認できる。	一部の目標は達成したが、成果にはバラつきがある。	成果が乏しく、目標が達成できていない。	成果が見られず、事業の目的が果たされていない。
効率性	実施方法に無駄がなく、段取りや手順が非常に工夫されている。	全体としてよく考えられており、概ね効率的に実施されている。	一定の工夫は見られるが、非効率な部分も一部残っている。	実施の段取りや手法に無理・無駄があり、再検討の余地がある。	非効率で場当たりのな実施に見える。方法の見直しが強求められる。
必要性	高い市民ニーズがあり、今後も不可欠な事業。	一定のニーズがあり、当面は継続の必要性がある。	限定的なニーズだが、部分的に必要性が認められる。	必要性が薄れており、見直し・休止の検討が必要。	必要性が見られず、廃止が妥当と考えられる。
明瞭性	誰にでも分かりやすく、説明も優れている。	説明内容は概ね明瞭で、市民の理解が得やすい。	一部分かりにくい点があるが、理解可能な範囲。	内容や目的が不明瞭で、市民に伝わりにくい。	非常に分かりにくく、市民への説明責任を果たせていない。

(2) 個人総合評価

総合得点	評価	評価内容
100～90点	A	非常に優れており、他事業の模範となる水準
89～75点	B	十分な成果と必要性があり、継続が妥当
74～60点	C	概ね良好だが、部分的に改善の余地あり
59～40点	D	成果・必要性に課題があり、改善が必要
39点～	E	効果・必要性が乏しく、廃止・統合も検討対象

(2) 個人総合評価

評価	
意見・コメント	

二次評価委員名	
---------	--

(3) 委員会総合評価

総合得点	評価	評価内容
900～810点	A	個人総合評価と同様
809～675点	B	
674～540点	C	
539～360点	D	
359点～	E	

令和8年度 瑞浪市総合計画推進委員会 事業評価シート

担当課	高齢福祉課	担当課長名	加藤 真由子
-----	-------	-------	--------

1. 事業概要				部・局名	健康福祉部	課・所属名	高齢福祉課
施策体系	大区分	生涯活躍のまちづくり			事業概要	高齢者に教養の向上とレクリエーション活動の場を提供し、心身の健康増進を図るため、市内3箇所に老人憩いの家を設置しています（寿楽荘・福寿荘・桜寿荘）。瑞浪市社会福祉協議会に運営を委託（指定管理）しており、体操・小物づくり・音楽療法など、介護予防事業にも取り組んでいます。 協定期間：令和8年4月1日～令和13年3月31日（第5期） 対象者：瑞浪市在住の60歳以上の方 設備等：バターゴルフ、ヘルストロン、カラオケ、シャワー等（施設によって異なります。）	
	中区分	高齢者福祉					
	小区分	高齢者の社会参加の支援					
実施事業	事業名	老人憩いの家管理経費（指定管理）			翌年度以降3年間の内容		
	事業目的	指定管理者制度に基づく施設の円滑な管理運営					
	目標指標	利用者数（延べ人数）					
	事業期間	H18～					
	総括表掲載	掲載あり					
	二次評価対象	○					
予算科目	会計	款	項	目	事業名		
	001 一般会計	003 民生費	001 社会福祉費	003 老人憩いの家費	03010301	老人憩いの家管理経費	

2. 事業評価															
年度区分等		投入コスト（単位：千円）							目標値実績（単位：人）						
		決算事業費（単位：千円）							年度	実績	目標				
国庫支出金	県支出金	起 債	基 金	その他	一般財源	計									
6						17,104	17,104	5	6,907.0	6,000.0					
7						18,065	18,065	6	6,669.0	8,400.0					
8								7	6,423.0	9,500.0					
9								8	0.0	10,200.0					
10								9	0.0	10,200.0					
11								10	0.0	10,200.0					
12								11	0.0	10,200.0					
13								12	0.0	11,400.0					
14								13	0.0	10,200.0					
15								14	0.0	10,200.0					
計						35,169	35,169	15	0.0	10,200.0					
担当課評価	実施状況	各施設にて自主事業を実施し、利用者確保に努めています。令和8年度より第5期の指定管理を行っています。													
	問題課題	コロナ禍で激減した利用者数は徐々に回復していましたが、令和6年度をピークに減少に転じています。高齢化による介護度の上昇や、移動手段の減少が影響していると考えられ、施設の複合化等に併せ、事業の存続について検討する必要があります。													
	具体的改善内容	周知・PR活動等や事業改善を行いつつ、利用者数の増減等に注視します。また、庁内での検討、委託先等の協議及び市民アンケート等の実施により、第6期以降も事業を存続するかを検討します。													
査定							次年度方向性	現状で継続							

3. 達成度評価

達成度	C	【達成度凡例】 A…目標値を達成 B…目標値の7割以上達成 C…目標値の5割以上達成 D…目標値の3割以上達成 E…目標値の3割未満の達成
-----	---	--

4. 二次評価

(1) 項目別評価

達成度	事業の成果や実施の目標に対する達成状況。	評価	
効率性	実施体制、実施主体を含め、事業の進め方が明確でスムーズか。	評価	
必要性	市民ニーズや社会情勢等を踏まえた事業を実施する必要があるか。事務事業の現状や成果から考えて、廃止・休止の可能性はあるか。 ※完了した事業については、効果の観点で必要であったか評価する。	評価	
明瞭性	事業の内容やその評価が、市民に分かりやすいか。	評価	

【二次評価基準凡例表】

(1) 項目別評価

評価項目	A(25点)	B(20点)	C(15点)	D(10点)	E(5点)
達成度	目標を大きく上回る成果があり、高く評価できる。	おおむね目標を達成し、一定の成果が確認できる。	一部の目標は達成したが、成果にはバラつきがある。	成果が乏しく、目標が達成できていない。	成果が見られず、事業の目的が果たされていない。
効率性	実施方法に無駄がなく、段取りや手順が非常に工夫されている。	全体としてよく考えられており、概ね効率的に実施されている。	一定の工夫は見られるが、非効率な部分も一部残っている。	実施の段取りや手法に無理・無駄があり、再検討の余地がある。	非効率で場当たりのな実施に見える。方法の見直しが強く求められる。
必要性	高い市民ニーズがあり、今後も不可欠な事業。	一定のニーズがあり、当面は継続の必要性がある。	限定的なニーズだが、部分的に必要性が認められる。	必要性が薄れており、見直し・休止の検討が必要。	必要性が見られず、廃止が妥当と考えられる。
明瞭性	誰にでも分かりやすく、説明も優れている。	説明内容は概ね明瞭で、市民の理解が得やすい。	一部分かりにくい点があるが、理解可能な範囲。	内容や目的が不明瞭で、市民に伝わりにくい。	非常に分かりにくく、市民への説明責任を果たせていない。

(2) 個人総合評価

総合得点	評価	評価内容
100～90点	A	非常に優れており、他事業の模範となる水準
89～75点	B	十分な成果と必要性があり、継続が妥当
74～60点	C	概ね良好だが、部分的に改善の余地あり
59～40点	D	成果・必要性に課題があり、改善が必要
39点～	E	効果・必要性が乏しく、廃止・統合も検討対象

二次評価委員名	
---------	--

(2) 個人総合評価

評価		
意見・コメント		

(3) 委員会総合評価

総合得点	評価	評価内容
900～810点	A	個人総合評価と同様
809～675点	B	
674～540点	C	
539～360点	D	
359点～	E	

令和8年度 瑞浪市総合計画推進委員会 事業評価シート

担当課	商工観光課	担当課長名	足立 寛聡
-----	-------	-------	-------

1. 事業概要				部・局名	経済部	課・所属名	商工観光課
施策体系	大区分	活みなぎるまちづくり			事業概要	インバウンド観光客についてニーズや実態を把握し、観光における現状課題を整理するための調査・分析を行います。また、分析結果をもとに観光振興及び地域活性化の観点から持続可能な観光地づくりのための整備方針、観光施策の考案を行います。	
	中区分	観光					
	小区分	観光資源の魅力向上					
実施事業	事業名	インバウンド観光コンテンツ造成事業			翌年度以降3年間の内容		
	事業目的	インバウンド観光客に向けた観光施策による持続可能な観光地づくり					
	目標指標	大湫町旧森川訓行家住宅（丸森）外国人入館者数					
	事業期間	R7～					
	総括表掲載	掲載なし					
	二次評価対象	○					
	予算科目	会計	款	項			
	001 一般会計	007 商工費	001 商工費	004 観光費	07010435	インバウンド観光コンテンツ造成事業	

2. 事業評価

投入コスト（単位：千円）								目標値実績（単位：人）		
年度区分等	決算事業費（単位：千円）							年度	実績	目標
	国庫支出金	県支出金	起債	基金	その他	一般財源	計			
6								5	0.0	0.0
7		1,925				2,310	4,235	6	0.0	0.0
8								7	1,265.0	1,000.0
9								8	0.0	0.0
10								9	0.0	0.0
11								10	0.0	0.0
12								11	0.0	0.0
13								12	0.0	0.0
14								13	0.0	0.0
15								14	0.0	0.0
計		1,925				2,310	4,235	15	0.0	0.0
担当課評価	実施状況	本市及び近隣市を訪れたインバウンドを対象とした動向調査及びニーズ調査を実施するとともに、インバウンド向け旅行商品を取り扱う旅行会社へのヒアリング調査を行い、誘客や消費拡大に向けた現状と課題を把握しました。								
	問題課題	本市における観光消費額は高い水準にあるとは言えず、滞在時間の短さや観光コンテンツの不足が課題であることが明らかとなりました。また、プロモーションや販売体制の強化も必要となっています。								
	具体的改善内容	インバウンドに限らず、国内旅行者も対象とした観光コンテンツの充実を図ります。また、観光協会がランドオペレーターとして旅行商品の造成から販売、プロモーションまでを一体的に担う体制を構築し、誘客促進と消費額の拡大を目指します。								
査定			次年度方向性					完了		

3. 達成度評価

達成度	A	【達成度凡例】 A…目標値を達成 B…目標値の7割以上達成 C…目標値の5割以上達成 D…目標値の3割以上達成 E…目標値の3割未満の達成
-----	---	--

4. 二次評価

(1) 項目別評価				二次評価委員名	
達成度	事業の成果や実施の目標に対する達成状況。	評価		評価	
効率性	実施体制、実施主体を含め、事業の進め方が明確でスムーズか。	評価		意見・コメント	
必要性	市民ニーズや社会情勢等を踏まえた事業を実施する必要はあるか。事務事業の現状や成果から考えて、廃止・休止の可能性はあるか。 ※完了した事業については、効果の観点で必要であったか評価する。	評価			
明瞭性	事業の内容やその評価が、市民に分かりやすいか。	評価			

【二次評価基準凡例表】

評価項目	A(25点)	B(20点)	C(15点)	D(10点)	E(5点)
達成度	目標を大きく上回る成果があり、高く評価できる。	おおむね目標を達成し、一定の成果が確認できる。	一部の目標は達成したが、成果にはバラつきがある。	成果が乏しく、目標が達成できていない。	成果が見られず、事業の目的が果たされていない。
効率性	実施方法に無駄がなく、段取りや手順が非常に工夫されている。	全体としてよく考えられており、概ね効率的に実施されている。	一定の工夫は見られるが、非効率な部分も一部残っている。	実施の段取りや手法に無理・無駄があり、再検討の余地がある。	非効率で場当たりのな実施に見える。方法の見直しが強求められる。
必要性	高い市民ニーズがあり、今後も不可欠な事業。	一定のニーズがあり、当面は継続の必要性がある。	限定的なニーズだが、部分的に必要性が認められる。	必要性が薄れており、見直し・休止の検討が必要。	必要性が見られず、廃止が妥当と考えられる。
明瞭性	誰にでも分かりやすく、説明も優れている。	説明内容は概ね明瞭で、市民の理解が得やすい。	一部分かりにくい点があるが、理解可能な範囲。	内容や目的が不明瞭で、市民に伝わりにくい。	非常に分かりにくく、市民への説明責任を果たせていない。

(2) 個人総合評価

総合得点	評価	評価内容
100～90点	A	非常に優れており、他事業の模範となる水準
89～75点	B	十分な成果と必要性があり、継続が妥当
74～60点	C	概ね良好だが、部分的に改善の余地あり
59～40点	D	成果・必要性に課題があり、改善が必要
39点～	E	効果・必要性が乏しく、廃止・統合も検討対象

(3) 委員会総合評価

総合得点	評価	評価内容
900～810点	A	個人総合評価と同様
809～675点	B	
674～540点	C	
539～360点	D	
359点～	E	